

高志中等教育学校の生徒が国道の管理を学びました。

7月19日、20日に新潟市立高志中等教育学校2年生8名が新潟維持出張所において総合学習を行いました。

国道の管理について説明を受けた後、道路パトロールを実際に行ったり、新潟国道事務所情報管理室において道路情報板表示装置や気象情報監視装置等を見学したり、除雪車や路面清掃車等の作業車の見学を行いました。また、国道49号揚川改良のトンネルや橋をつくっている現場を見学しました。

生徒からは、「みなさんの仕事に対する真剣さや責任感を感じられた」「道路の管理、細かい作業がいかに大事か学ぶ良い機会になりました」「国土交通省の働きがあるから人々が安心して安全に暮らせるんだと思いました」「まだ作っている途中のトンネルや普段見ることのできない橋の中に入ることができたことが一番印象に残っています」「橋の中が空洞になっているのは予想外でした」などの感想がありました。

新潟国道事務所では学校の総合学習などを支援しています。お気軽にお問い合わせください。



実際に道路パトロールを体験



情報管理室の各種装置を見学



除雪機械等を見学



揚川改良 橋の中を見学

関連URL: 記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2012071701taikengakusyuu.pdf>

国道49号揚川改良事業の「黒岩トンネル」が貫通しました

平成24年8月7日に揚川改良事業の「黒岩トンネル」が貫通しました。

黒岩トンネルは揚川改良の新潟側に位置する延長398mのトンネルで、平成23年1月から掘削を開始して約8ヶ月かけて掘り進みました。

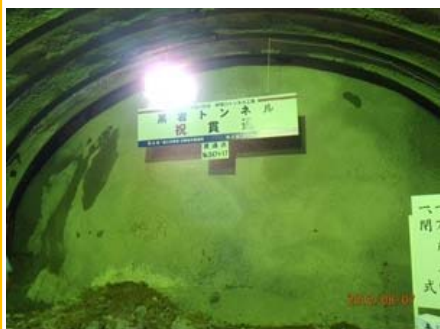
貫通当日は関係者が見守る中、重機を使用してトンネルの貫通が行われ、その後、施工業者主催による貫通式典が開催されました。

黒岩トンネルの今後の作業として、トンネルの壁をコンクリートで覆う「覆工」、福島側のトンネル出入り口を構築する「坑門工」、トンネル内を車が走行できるようにする「舗装工」に取りかかっています。

トンネルは無事に貫通しましたが、残りの作業についても安全第一で進めていき、無事故でトンネルを完成させたいと思っています。



トンネル貫通の瞬間



貫通箇所の状況

関連URL: 記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2012080301kuroiwatnkantsuu.pdf>

関連URL: 揚川改良事業かわら版 揚川だより

http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/info/agekawa_dayori/index.html

新潟まつり「おまつり広場」内で「道路ふれあいコーナー」を開設しました。



パネルを見ながらクイズに回答



国内最大の豪雨を体験



中越地震の揺れを体験

新潟市中央区万代1丁目の新潟まつり「おまつり広場」内において「道路ふれあいコーナー」を8月4日（土）、5日（日）の二日間にわたり開設いたしました。

「道路ふれあいコーナー」は、国土交通省が実施している毎年8月の「道路ふれあい月間」における啓蒙活動の一環として開設されているもので、道路を利用している皆様に道路の役割及び重要性を再認識してもらい、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図り、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的として、国道や市道等の道路管理者、ガス・水道・通信線等といった道路占用者等で構成する実行委員会が各種のイベントコーナーを運営しました。このコーナーは以前「新潟フェスティバル」という名前で実施していたころから含めると今回で28回目を数えます。

当日は30度を上回る猛暑となったものの、夏休み中の土日ということもあり、小中学生や小さいお子様の親子連れなど、たくさんの方が会場に来られ、真夏の昼のイベントを楽しんでおられました。

特に、4日には過去の豪雨を体験できる降雨体験車、5日には震度7までの大地震を体験できる地震体験車が運営され参加者の関心を集めました。

また、降雨体験車による日本国内で最大の1時間当たり187mmの豪雨（昭和57年7月長崎豪雨）の体験中に怖さを感じ泣き出すお子様も何人か見られました。

今回の初めての試みとして、パネル展示とクイズコーナーを合体させました。新潟・福島豪雨と東日本大震災の計8枚のパネルの中にクイズの答えがあり、5問のうち3問以上の正解で冷水ペットボトルがもらえる企画です。解答者はパネルをじっくり見て、冷水ペット目指して頑張っていました。

関連URL: 記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2012080201hureaikona.pdf>

萬代橋誕生祭で萬代橋の歴史を紹介



パネルでわかりやすく紹介・説明



実験ブースで液状化を体験

国の重要文化財であり、新潟市のシンボルでもある萬代橋の83歳をお祝いする「萬代橋誕生祭」が8月25日（土）に行われ、にいこくもブースを出展しました。

にいこくブースでは、初代萬代橋～3代目萬代橋（現萬代橋）の歴史、新潟地震でも起きた液状化現象を主に紹介しました。

萬代橋の歴史はパネル・模型を使用して紹介しました。液状化現象の紹介では、構造物が埋もれていく様子を水槽やペットボトルでの実験を通して簡易的に見ることができ、子供から大人の方まで関心を持って見てもらえました。

当日は大変暑かったですが、多くの方がブースを訪れてくださり大盛況でした。

1886年の開通以来、東西新潟の交通の要の役割を果たしてきた萬代橋。美しさと風格、さらに強さをもあわせ持つ萬代橋は、新潟市のシンボルとして愛されています。改めて萬代橋を大切に後世にまで残していきたいと感じました。

関連URL: 記者発表資料

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/kisha/pdf/2012082101bandaibashi.pdf>

関連URL: 重要文化財『萬代橋』に関するサイト

<http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/info/bandaibashi/index.html>

編集・発行・お問い合わせ

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所 計画課

電話 025-244-2159（代表） 〒950-0912 新潟県新潟市中央区南笹口2-1-65

E-MAIL : niikoku@hrr.mlit.go.jp みちなび新潟: <http://www.hrr.mlit.go.jp/niikoku/index.html>

